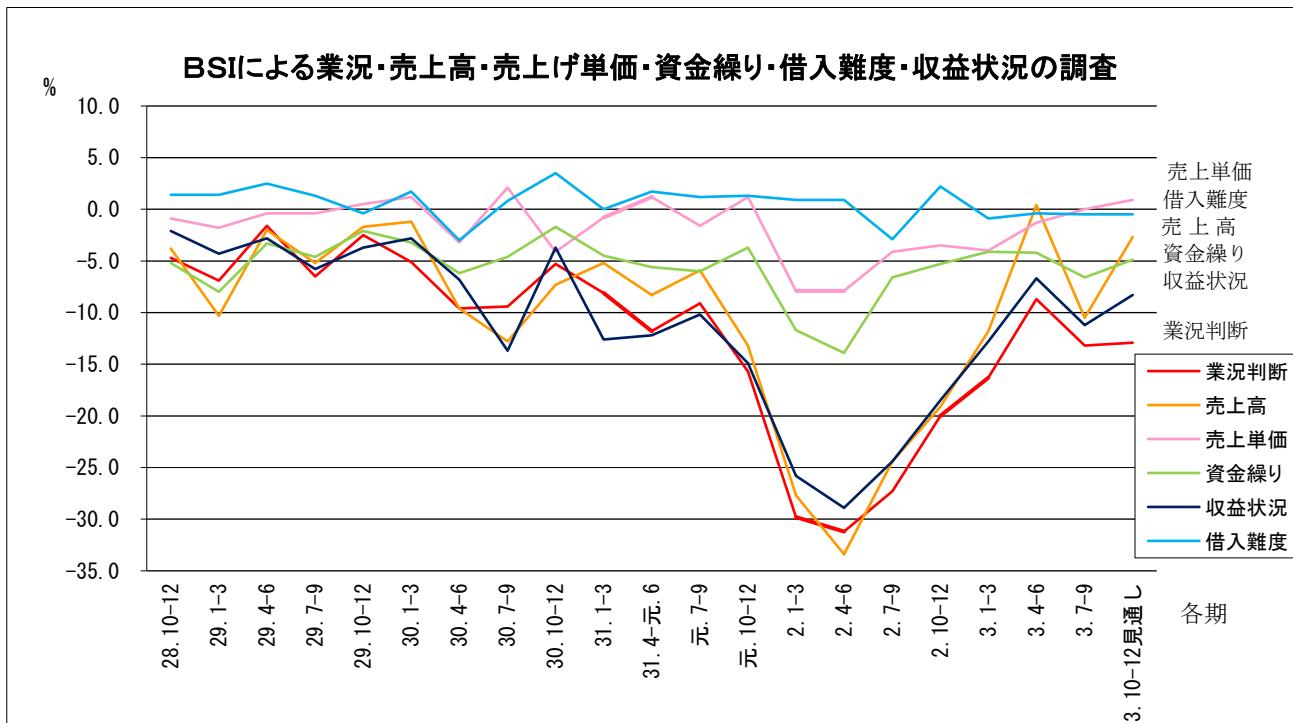


中小企業景況調査結果報告書

令和3年7-9月期(令和3年10-12月期予測)

—鳥取県下4商工会議所の調査より—



前年同期比 * ()内は2020. 7~9月期の数字

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	116	-10.5 (-24.4)	0.0 (-4.1)	-6.6 (-6.6)	-0.5 (-2.9)	-11.2 (-24.4)	-13.2 (-27.3)
製造業	34	4.4 (-30.0)	5.9 (-12.8)	-4.4 (-12.9)	0.0 (-9.2)	3.0 (-26.9)	-4.4 (-32.1)
非製造業	82	-16.7 (-21.8)	-2.4 (0.0)	-7.5 (-3.7)	-0.6 (0.0)	-17.1 (-23.3)	-16.9 (-25.0)
(建設業)	25	-10.0 (-19.2)	4.0 (2.0)	2.0 (-2.0)	4.2 (0.0)	-14.0 (-21.2)	-10.0 (-25.0)
(卸売業)	19	-13.2 (-16.7)	0.0 (7.2)	-5.3 (4.8)	-2.7 (4.8)	-15.8 (-19.1)	-19.5 (-21.4)
(小売業)	21	-32.5 (-22.5)	-9.5 (-7.5)	-16.7 (-15.0)	-4.8 (-7.5)	-31.0 (-18.4)	-26.2 (-23.7)
(サービス業)	17	-11.8 (-30.6)	-5.9 (-2.8)	-13.4 (-3.2)	0.0 (3.2)	-5.9 (-36.1)	-12.5 (-30.6)

来期(2021. 10~12期)見通し * ()内は前年同期の数字

	回収数	売上高	売上単価	資金繰り	借入難度	収益状況	業況判断
全産業合計	116	-2.7 (-20.0)	0.9 (-6.6)	-4.9 (-7.0)	-0.5 (-3.7)	-8.3 (-20.4)	-12.9 (-20.8)
製造業	34	7.4 (-22.5)	8.9 (-11.5)	-4.4 (-16.7)	-1.5 (-11.8)	-4.5 (-24.4)	-8.9 (-24.4)
非製造業	82	-6.9 (-18.9)	-2.5 (-4.2)	-5.1 (-2.4)	0.0 (0.0)	-9.9 (-18.5)	-14.6 (-19.1)
(建設業)	25	7.9 (3.6)	-2.0 (0.0)	0.0 (0.0)	2.1 (0.0)	-8.0 (-25.0)	-14.0 (-17.4)
(卸売業)	19	-2.6 (-16.7)	-5.6 (-4.8)	-5.3 (2.4)	-2.7 (4.8)	-7.9 (-16.7)	-13.9 (-19.1)
(小売業)	21	-12.5 (-15.0)	0.0 (-7.5)	-7.1 (-7.5)	0.0 (-5.0)	-16.7 (-13.2)	-22.5 (-22.2)
(サービス業)	17	-6.3 (-22.2)	-7.5 (-5.6)	-2.7 (-6.3)	5.3 (0.0)	-9.6 (-16.7)	-11.9 (-22.3)

* BSI=(上昇・増加-減少・下降)×1/2 (但し、「上昇・増加」+「横ばい」+「減少・下降」=100)

経営者の業況に対するマインドを反映するもの。(0%)は「上昇・増加」と「減少・下降」が同数。「+」は上昇・増加、「-」は減少・下降)

■業況(グラフ参照)は……

今期は「売上高」で大きな下降が見られます。これは「建設業」を除く産業が下降したためです。特に「小売業」20.6 ポイント、「サービス業」14.4 ポイント、「製造業」11.0 ポイントと大きな下降が見られました。来期は全ての産業で上昇が見通されています。特に「建設業」は17.9 ポイントと2期連続の上昇が見込まれています。また「小売業」では 20.0 ポイントの上昇が見込まれています。

産業毎の「業況判断」では、「小売業」16.7 ポイント、「卸売業」13.9 ポイント下降しました。来期は上昇が見通されていますが、今期の下降を補えるポイントではありません。

しかし、都市部の緊急事態宣言解除、営業時間短縮要請や酒類提供制限の解除に加え、ワクチン接種が浸透してきたことで、各種キャンペーンを利用した来客増加に期待が持てます。

■直面している経営上の問題点

- 1位:原材料・仕入れ価格上昇(16.77%)
- 2位:売上・受注の減少(16.46%)
- 3位:消費・需要の停滞(13.35%)
- 4位:人手不足(11.80%)
- 5位:利益率低下(8.70%)

■各社からのその他の問題点

- ・今後の公共工事発注が先行き不透明であり、次年度以降の収益環境は厳しいものと予想される(建設業)
- ・第一に人手不足(若手の応募がない)なので、技術の継承が出来ない。(建設業)
- ・県を跨ぐ移動が難しいため、工事範囲が限られ、施工応援を他県から呼べない棟、コロナの影響はじわじわと感じる。(建設業)
- ・国や行政のコロナ支援が業種や業界により大きな偏りがある(製造業)
- ・海外輸入先がロックダウンとなり制御関係部品の入荷が困難となっている。この状況は暫く継続する模様(製造業)
- ・今年の売上高は増加しているが、昨年が悪すぎた結果として増加しただけ。一昨年と比較すればやはり減少しているし、原材料の不足と単価急上昇で利幅は薄い。(製造業)
- ・半導体不足や東南アジアの部品が新型コロナウィルス感染症の影響により調達不足等になり自動車減産となっているため、受注に影響が出ています。(製造業)
- ・様々な資材の価格が高騰しており、特に鉄板は昨年の2倍以上になっています。製造業には収益を悪化させる大問題となっております。(製造業)
- ・設備の老朽化対策及び新営設備導入投資が問題になっている。(製造業)
- ・7月からのコロナ感染者急増に反比例するように客足と売上は減少した(小売業)
- ・10月より仕入れ価格が 2~12% 上昇し、完成車(新車)が売りづらい。部品もスムーズに入荷できなくなっている。(小売業)
- ・コロナショックの長期化により、業況回復の兆しが見えない(サービス業)
- ・「WeLove 山陰」等のキャンペーンを再開していただけるのは嬉しいですが、マスコミに流れた後に各旅館に再開の FAX が流れてくるのはいかがなものか?「ニュース見て TEL したのですが…」とお電話をいただいても返答できず困る。(サービス業)